

第4回 健康づくり推進協議会の概要報告

開催日	平成27年7月15日（水）14：00～16：00
開催場所	群馬県公社総合ビル5階第3会議室
出席委員	岡田委員、小野寺委員、齋田委員、齋藤委員、佐藤議長、田代委員、津久井委員、角田委員、渡辺委員（五十音順）
事務局	支部長、業務部長、企画総務部長、レセプトグループ長 企画総務グループ長、保健グループ長 企画総務グループリーダー、保健専門職
議題	（1）群馬支部事業概要 （2）群馬支部保健事業概要 （3）群馬支部データヘルス計画（群馬支部健康づくり推進計画）
議事概要 （主な意見等）	議題1．群馬支部事業概要 議題2．群馬支部保健事業概要 資料に基づいて事務局より説明を行った。 主な質問・意見は以下のとおり。 （議長） 事務局の説明によると連携協力が広がっているようだが、前橋市さんとの取組について教えてほしい。 （行政） 先ほどの説明にもあったように、昨年11月に行われた健康フェスタを、今年は充実させようということで、詳しくはこの後協会から報告があるが、打ち合わせを進めているところ。データヘルス計画についても分かりやすく伝えていけたらと考えている。 （議長） 労働との連名で呼びかけていることについてはどうだったのか。 （行政） 労働者の健康管理ということで、毎年7月から1週間、安全衛生週間ということで全県

下の事業所に参加してもらい、企業の最低でも労務担当、企業内でもそれなりに発言権を持っている方に参加してもらっている。一回では無理でも毎年毎年繰り返し声をかけていくことで、企業の理解を得られると思うので今後も、協力し合っていきたいと考えている。

議題3. 群馬支部データヘルス計画（群馬支部健康づくり推進計画）

資料に基づいて事務局より説明を行った。

主な質問・意見は以下のとおり。

（議長）

コラボヘルスという言葉は耳慣れているだろうか。コラボヘルスという言葉の説明をお願いしたい。

（事務局）

コラボヘルスという言葉が最近出てきている。健康づくりを保険者として進めていく中には、保険者主導の健康づくり計画もあると思うが、実際には各事業所様に合った健康づくりを進めていくことが重要と考えている。そういった意味で紹介させていただく事業所様それぞれの特徴を踏まえた健康づくりをアドバイスさせていただく上で、事業所様と一緒に組んだ、事業所様とコラボしたヘルス事業という意味で『コラボヘルス』という言葉が使われているようだ。健康経営という言葉も出ていると思うが、協会に加入されている方一人ひとりが健康な毎日を過ごしてもらい、元気に働いてもらうことで、経営者側にとっても職場の活性化や生産性向上が図れるという意味で健康経営という言葉が使われるようになってきている。要は保険者主導よりは、各事業主様またそこで働く加入者一人ひとりが主役の健康づくりという意味で、使わせていただければと思う。

（事業主代表）

リスクが高いということで、目標について29年度には全国平均の40%を目指すということだが、数値設定については、どのように算出するのか。

（事務局）

42.7%というのは、24年度の群馬支部の血圧リスクです。その時の全国リスクが39.9%だった。全国平均と同じ数値にするとしたら、39.9%という数値を目標にすればよいのだろうが、数値を下げるというデータヘルス計画が初めて行うにあたり、どの程度下げられるものか迷いながらの設定であったので、キリよく40%にさせてもらったというのが数字の出し方です。

（事業主代表）

群馬県はいろいろなデータから、全国平均の資料にもあるのだが、目標数値はもっと大きくした方がよい。行政も関係機関も合わせてということだろうから、全国平均並みに

早くもっていったほしい。

（医療関係者代表）

血圧の話が出ていたので、実際的具体的なものを運動でいくのか減塩の方に行くのか、今までもデータがいろいろ示されていたと思うが、あまり明確ではなかった。实际的に運動するとなると、どこに力を入れるのか。

（議長）

今回のデータヘルス計画では、減塩をしないということではなく、運動量が少ないというデータから、活動量計を活用して調査したり、実際の歩数を増やす取り組みを行うということであった。

（事務局）

協会けんぽ20年10月に発足以来、加入者のデータの蓄積がないというところから始まっているので、生活習慣についても全く分からないという点があり、分析の段階でも国民健康・栄養調査の結果から群馬のものを持ってきて、全国平均より歩数が少なく、塩分摂取が多いという2つの特徴をもってきている。その他、喫煙や野菜の摂取量等は全国平均より下回っているわけではなかったなので、歩数と塩分2つの特徴を捉えて、どちらから始めてもよかったと思うが、健診結果では、血圧が際立っていたので上位目標に掲げたが、その他糖尿病の問題もあるし、協会の加入者では女性で中性脂肪や血糖値も特徴的だが、運動をすると両方改善するため、運動を選ばせてもらった。

（医療関係者代表）

よく理解できたが、この目標で運動を重点にするというのがなかなか見えてこない。もっと明確に伝えるようにした方がよい。

（事務局）

はい、ありがとうございます。その点、チラシで分かりやすく伝えるために、血圧のリスクと裏面にその対策という形に絞りこみをして、運動を全面に出していきます。このチラシを一般の方に配っていきます。またホームページにはまだデータヘルス計画を掲載していないが、概要版ということで、かなりピンポイントで分かりやすく伝えていくのでよろしくお願いします。

（議長）

その形で強力に進めていき、3年で40%でなく、緩やかでなくもっとしっかり下げたいければよいという意見だと思う。事業所の皆さんのところに出向いていき、実際の運動量をどう増やしていく中で、事業主の立場、加入者の立場でのご意見をお願いしたい。

（加入者代表）

データヘルス計画はすごくよく練ってあると思う。この計画を細かく実施していくことが大前提になるが、事業主への動機づけ、意識づけをしていくことでは、この活動内容では弱いと思う。何故かという、従業員が加入者が元気になった、数値がよくなったといっても、事業主が積極的に動けるか、職員に対しても動機づけするかいうと厳しい

と思う。極端かもしれないが、例えば、業種ごとに、事業所ごとに目標を設定しておき、それをクリアした事業所に対しては何等かの恩恵があるということでなければ、数字で見えるものがないと表彰を受けましたといっても、今労働力もほしいところであるし、剥き出しのインパクトが薄いと思う。あとは、保健指導とか、マンパワー不足があるが、地道に面会したりしていくマンパワーをどうするか。外部との協力でよいと思う。自身も保健指導を受ける立場であるが、必要以上に通ってくれる熱意があれば、大事なんだという気持ちが伝わってくるものがあつた。事業所に「頑張って健診受けてください」という言葉かけだけでは、広がっていかないようなイメージがある。その熱意で動いていくしかないなと思う。説得していくしかないなと思う。

（議長）

事業主さんがその気になるような、具体的にどこにどういったところから関わっていけばよいのか。

（加入者代表）

事業主にとって数字に見えるような、例えば保険料が安くなるとか。行政とも絡みも出てくると思うが、その位のインパクトがあると、群馬で全国平均より下げようという目標には届かないのではないかなと思う。業界の中で協会けんぽが先陣を切ってやっていくというのでなければ難しいと思う。

（加入者代表）

前よりは協会けんぽから来る情報はよくなっていると思う。ちょっとした歩く時の歩き方の効率的な方法など。働いている人はいろいろ情報を得られるが、働いていない方には届かないと思う。従業員さんを通して、家族の方にも届く内容の情報提供を工夫してもらえるとよい。運動は私自身が構えてしまって、息が切れてやめてしまうので、掃除をしながらやるとよいとか、ちょっと伸ばしながらやるとよいというようなコツを教えてもらえると定着すると思う。家族と一緒に取り組める運動が紹介されるとよい。

（事務局）

具体的なご意見ありがとうございます。取り入れてもらいやすいアイデアを絞る必要がある。表彰もやっている支部ばかりではなく、群馬支部で考えたものなので、今後も知恵を絞りたい。今後もぜひアイデアをいただきたい。

（事業主代表）

群馬は高齢者が多く、実際の目標の達成も困難だと思う。人口減も頭が痛い問題。そういう中で群馬はリスクが高いということは、大きな問題。高齢化も含めていろいろ考えていかなければいけない問題。若い人が少ないわけで、健康な人が少ないわけで、事故で倒れた、労災で倒れたという、いろいろな問題を抱えて採用しなければならない。人間の労力には限りがあるわけだから、データの算出方法も考えていかなければならない。

(行政)

県ではこれまで職域について十分把握していなかったのが、今後なるべく協力してやっていきたい。協議会でも地域でもやっていきたい。県では、糖尿病の対策をやっているが職域もといとなかなかやれていなかった。また運動しましょうという話も10分やりましょうと「プラステン」ということで進めてきたが、知っている人はいない。経営的なメリットは確かに産業的な分野で検討していて、確かにこの分野に限らず(検討する価値は)あると思う。表彰は優良企業というそれだけでは、なかなか。といっても美味しいメリットがあるかというとなかなか。県は国保のデータを見るので、お互いに工夫をしてやっていきたい。お互いにやり合いながら進めていけたらと思う。

(行政)

労働で把握しているのは全く別。50人以上の企業には健診は義務で、26年度のデータでは、有所見率が53.2%で全国より若干高い。先ほどからの血圧が高い。平成一桁の時に、シルバーヘルスプロモーション。年齢が上がってきた時の健康の保持。今がTHP (Total Health Plan) 現状の維持向上を目指すもの。事業所にPRしている。50名以上の企業では産業医を持つことが義務なので、相談を受けてもらったり指示をもらったりということができている。先ほどからメリットメリットと何度も出ているが、健康でいることの企業のメリットは多大にある。昔だとバブルの時期に企業に指導に行くとプラプラしている人がいたが今はいない。ということは仕事に精通しているかどうかは別に、今は一人でも抜けると誰がそれを補うかということになる。少なくとも健康で働ける元気で働けるということは企業にとって大きなメリットになる。モノをもらうとか関係なく、企業にとって従業員が働けること自体が重要だと指導して回っている。健康診断の結果で血圧が高いということは、健診を受ける条件によって上限値下限値が違いますね。企業は健診の結果から示されて、従業員が高血圧だと知るわけですね。健診によっては独自の基準をもとに独自の結果を示しているということか。

(事務局)

現在協会は、特定健診・特定保健指導を中心に取り組んでいるので、今回のリスクがありなしについても、メタボの診断基準を活用している。医療機関によっては140/90以上でないと高血圧という指摘はされないが、今はすべてメタボの基準に合わせているので、130/85に合わせて判断している。

(行政)

健康診断をやっている機関によって、判断が違うので、医療機関を変えることで昨年とは随分違う結果が出ることもある。

また大きな事業所では、昼休みだけは全員で食べるころでは、ヘルシーメニューを選んで減塩したりする例もあった。なかなか個人には意識を持ってもらうのは難しい。

(議長)

コラボヘルスということで、その企業の中でやりたい方向性があるのだと思う。個別に相談しながらやっていくということだと思う。

(事務局)

事業主へのアプローチは非常に効果が高いと思うが、トップセールスというので担当者に行くが、事業所カルテを持参して総務担当者に話をするとよく聞いてくれて、それはいいことだとすぐにでも指導に入れそうな感じだか、実際担当者に聞いてみると、従業員がやりたくないという話になってしまう。相談も就業時間内にやるなどがあり、そのあたりがネックになってしまう。表彰に行くと、社長さん以下皆さんが迎えてくれて諸外国では、病気になって働けないと労働力の低下になるが、それ以外の腰痛や花粉症などで仕事に集中できない人たちがいると、労働力の喪失が75%にもなるということです。労働局の方でこういったデータがありますか。

(行政)

そういったデータはない。

(事務局)

そういうデータがあれば、目先のことでなくても入りやすい。鼻づまりなどは病気の扱いになっていないのだと思う。切々と説明しても納得いただけない。

(議長)

昼休みの10分を一緒に運動したり、終業時間後に10分歩こうということでも効果が出てくると思う。県の方にも話してもらったが、それぞれのデータが同じであれば、協力し合えるとよい。今後ともこの会以外の機会にも、こういった集まりがあるとか、こういった機会に話すと聞いてもらえる、こう思っているのだけなど、随時事務局にご提案いただき、この29年度までの目標が達成していけるようにご支援いただけたらと思う。

最後に、高崎市さんからご意見いただいて、質問でも構わないので、お願いしたい。

(行政)

今話を進めているところ。高崎は国保だが、市民の健康に貢献できるように協力し合えるとよい。前橋市さんが先輩なので、参考にしながら進めていきたい。

特記事項	
------	--

傍聴者1名あり。

次回開催は平成27年12月頃予定。別途連絡予定。